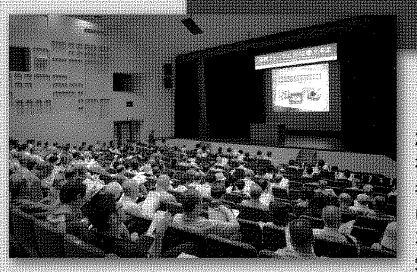
投信フォーラム2012 in 北海道

あなたのライフプランに投資信託 考えてみませんか？

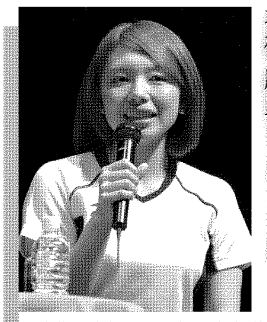


投資信託についての基礎知識を学ぶ「投信フォーラム2012 in 北海道」が7月21日、札幌市中央区の共済ホールで開かれました。フォーラムの第1部では、2006年トリノ、10年バンクーバー両冬季五輪に出場後、故郷の北見市常呂町に移り「ロコ・ソラーレ」を結成、“マリリン”の愛称で知られるカーリング選手の本橋麻里さんが、「カーリングを通じて得たもの」と題して特別講演。第2部では、投資信託の特徴や活用法などについて、ファイナンシャルプランナーの神戸孝さんがセミナーを開催。資産運用に関心を持つ約250人の参加者が熱心に耳を傾けました。

主催／（社）投資信託協会、北海道新聞社、全国地方新聞社連合会
後援／金融庁、金融広報中央委員会、財務省北海道財務局、大阪証券取引所、信託協会、全国銀行協会、東京証券取引所グループ、日本証券業協会、日本損害保険協会、不動産証券化協会、共同通信社

第1部 特別講演 カーリングを通じて得たもの

カーリング選手 本橋 麻里（もとはし まり）氏



北海道北見市生まれ。2006年トリノ冬季五輪7位、10年バンクーバー冬季五輪8位と連続入賞。10年7月北海道北見市において新チーム「ロコ・ソラーレ」結成。以降、11年北海道カーリング選手権優勝、日本カーリング選手権3位、12年北海道カーリング選手権準優勝、日本カーリング選手権準優勝など第一線で活躍中。

チーム全員が目標に向かって

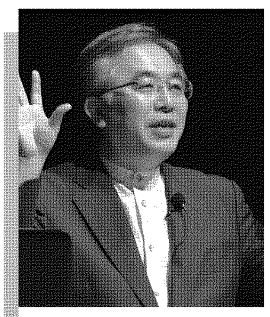
メンバー全員が北見市常呂町出身の「ロコ・ソラーレ」を結成して2季目を迎えた昨シーズン、今年1月の北海道選手権では、「北海道銀行」に敗れ連覇を逃しましたが、3月の日本選手権では北海道銀行や、昨年敗れた「チーム青森」に雪辱を果たし、準優勝することができました。あと一歩のところで優勝を逃し、とても悔しい思いをしましたが、2年という短い期間、「前に進むしかない！」という強い気持ちで、練習に取り組んできた成果があらわれたのは、素直にうれしく思っています。今シーズンこそは必ず優勝を勝ち取るつもりでいます。

カーリングの競技は、「スキップ（主将）」「リード」「セカンド」「サード」の4人1チームで行います。スキップの指示によってリード、セカンド、サード、スキップの順で相手チームと交互に、一人が1個ずつ2回、氷の上にストーンを滑らせます。「ロコ・ソラーレ」では私がスキップを務めていますが、スキップは、投球者と、ブラシを使って氷面をわずかに溶かし、ストーンの滑りをよくするスウィーパーに対し、ゲームの状況にあった作戦を指示する役割を持っています。海外遠征や合宿など過酷な練習、リーグ戦や選手権でのシビアな戦いを経験するたびに、手探りでつかめてきているものがあります。試合前や試合後はもちろん、練習後に行うミーティングでは、チームでノートをつくって反省や課題、思っていることを文字にして確認し合っています。

「氷上のチェス」「氷上のビリヤード」と呼ばれるカーリングは、知的で奥の深いスポーツです。1試合の競技時間は約2時間半も続きますが、一瞬たりとも油断できません。少しでも気を抜くと、点数を取られてしまいます。カーリングは、陸上のリレー競技と似ているところもあります。各選手は2回ストーンを投げて、次の選手につなぐ。実際にバトンを渡すわけではありませんが、選手たちが助け合って、最後の点数獲得に向かっていきます。ですから、カーリングを見るときは、選手同士のコミュニケーションにも注目してもらいたいです。

2014年に開かれるソチ冬季五輪に出場するには、10月に札幌で開催される選考会を勝ち抜き、11月にニュージーランドで開催されるパシフィック・アジア選手権で2位以内に入り、さらに来年3月の世界選手権に出場しなければなりません。中国や韓国が台頭する中、超えるべき壁は多いですが、大きな夢を持ちつつ、目の前の目標をチーム全員でクリアしていきたいです。皆様、「ロコ・ソラーレ」の応援をどうぞよろしくお願いします。

第2部 FPによる投資信託セミナー 資産運用の基本と投資信託の活用方法 ～『良いファンド』・『良くないファンド』の見分け方～



FPアソシエイツ&コンサルティング株式会社 代表取締役、ファイナンシャルプランナー 神戸 孝（かんべ たかし）氏

早稲田大学法学部卒業後、三菱銀行、日興證券を経て、1999年にFPアソシエイツ&コンサルティングを設立。わが国を代表する独立系FPとして、自ら個人・法人などのコンサルティング、各種講演会・研修会講師などを行う。CFP®、日本FP学会会員。日本FP協会理事、金融庁 金融経済教育懇談会委員、金融庁 金融審議会専門委員などを歴任。

資産運用のスタートは、金融資産の分別から

資産運用は、昔とは大きく様変わりしています。雇用や賃金体系の変化を背景に、収入が増える見込みはたちにくく、また、かつては預貯金で6、7％の利回りがありましたが、銀行の定期預金は今や0・5％の低金利です。これでお金を増やすのは無理があります。節約、倹約して、コツコツ貯蓄する銀行預金での運用から、長期の視点で資産形成する預貯金以外の金融商品への投資、活用というスタイルに変わっていかざるを得ません。

これから資産運用をする方は、まず「金融資産の分別」から始めましょう。長い人生を豊かに暮らすためには、お金を使う時期や目的によって分別し、それぞれの目的に合った運用を行うべきです。

一つ目は、日常使う「生活資金」。いざという時のために手元に備えておくお金です。金融商品としては、すぐに現金化できる流動性の高い普通預金などがいいでしょう。二つ目は、人生を楽しむために使う「ゆとり資金」。趣味や旅行にかかる費用、あるいはお子さんの結婚資金などが挙げられます。使い道がはっきりとしているお金ですから、運用の際には安全性や安定性を重視すべきです。使う時期がはっきり決まっていないならば、国内債券に投資する投資信託が有効な選択肢になります。また、リタイア後の「ゆとり資金」の運用手段として有効なのが、毎月分配型の投資信託や個人年金保険です。毎月、隔月、半年ごとといった頻度で分配金などが振り込まれるため、公的年金の不足分を補うことが可能です。三つ目は、生活資金とゆとり資金を除いた、10年以内に使う予定のない「残す資金」です。これは、将来のインフレへの対応や収益性を意識して積極的な運用を心掛けるべきお金といえます。

投資と投機の違いと、資産形成・保全の王道

預貯金以外の金融商品にはリスクがあるといわれますが、投資におけるリスクとは「損をすること、危ないこと」ではなく、「ブレること、不確実なこと」を表します。リスクとリターンが背中合わせというのも、ブレ（値の動き）が小さいものはリターン（もうけ）が小さく、高めのリターンを求めれば、ブレは大きくなることを意味します。リスクは予測可能であり、ある程度はコントロールすることも可能なので、むやみにリスクを怖がる必要はありません。

投資はバクチではありません。確かに、短期間で大きなリターンを狙おうとすると、勘と度胸でまとめ買いして、後は祈る。そんなバクチにも似た、「投機」的な行動を取ってしまいがちです。

「勘と度胸と祈り」が頼りの投機に対し、投資に必要なのは「理性と忍耐と科学」です。個人投資家はプロの機関投資家に比べ、情報量も資金力も劣ります。では、個人投資家がマーケットで勝利するための武器とは何でしょうか。それは「時間」です。「終わりよければすべてよし」というのは、個人投資家の特権です。将来価値を増しそうなものを買う、時期は分からないがいつかは値上がりしそうなものを買う。これが時間を武器にできる個人投資家の王道です。大勝ちを狙うことより、ブレを抑え、負けを小さくすることが肝心。長い目で見て、「将来有望そうなものに、自分の資金と時間を与える」というスタンスで投資対象を探すことが、投資の本質といえます。

長期投資・分散投資で、リスクのブレ幅を抑える

長期投資では複利効果を味方につけることが重要です。しかし、運用がマイナス側にブレると、複利効果はそのマイナス幅をさらに拡大させる方向に働きます。つまり大切なのは、ブレを小さくして負けにくい運用を行うこと。そのために必要なのが、値動きの異なる資産を組み合わせる「分散投資」の考え方です。例えば、一般的に逆の値動きをしがちな日本株とアメリカ国債に同時に投資して、全体の価格のブレを小さくするのが基本形となります。

上昇しそうな銘柄のみに集中投資するのは、ハイリスク・ハイリターンであり、分散投資は、ミドルリスク・ミドルリターンを目指すものです。5年後、10年後、成長する業種は何かを考えて、今後の資産分散を図ること。そして、定期的に見直して（リバランス）、最適な分散投資を追求していくことが大切です。さらに、運用資産を日本の株式と債券、海外の株式と債券の4つに分ければ、より負けにくくなります。これが「国際分散投資」といわれる運用方法です。

ただし、それでも負ける時はあります。その負けを消すために行うのが長期投資です。日本とアメリカの株と債券の4つの投資対象に25％ずつ分散投資して、保有期間を1年、5年、10年の3つのケースで見た場合のデータがあります。10年保有したケースでは、いつ始めても収益率が5％前後となり、一度もマイナスになっていません。これが、退職金など失ってはいけないお金を運用するのに適した長期投資、分散投資の効果です。

「シャープレシオ」で、運用上手なファンド選びを

個人投資家がポートフォリオ運用を始める時に、大変役立つのが投資信託です。投資信託とは、投資家から集めた資金をまとめて投資の専門家が運用し、得られた収益を投資家に分配する仕組みの金融商品です。メリットは少額資金から始められることや、分散投資の効果があること、個人では買えない金融商品に投資できること、多くの種類の中から自分に合ったものが選べることです。

投資信託の各ファンドは、どこの何に、どのように投資するか最初から決まっていて、その通りに運用することになっています。良いファンド、良くないファンドを見分けるには、投資信託が取ったリスクに対して、得られたリターンを表す指標「シャープレシオ」を活用するといいでしょう。シャープレシオの数値が大きいほど、運用効率がいい投資信託と考えられます。その上で、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券の基本の4つに加えて、不動産投資信託（REIT）、コモディティ（商品先物取引所で取り引きされている商品）に投資する投資信託をそれぞれバランスよく組み合わせることが重要です。攻めの姿勢なら株式、守りの姿勢なら債券の比率が高めのものにする。ただし、攻めでも守りでもREITとコモディティを加えておきましょう。

思いつくまま、勧められるまま金融商品を買うと、偏った資産配分になってしまいます。資産運用の設計図をつくり、それに当てはまる投資信託を買っていくことをお薦めします。

広告

あなたのライフプランに「投資信託」、考えてみませんか？

時間を有効活用してリスクを小さく。
【資産の分散】【長期の保有】【時間の分散】
投資信託はあなたの資産運用のお役にたちます。

ガイドブックプレゼント（各1冊セット） 無料

（2012年版）

（2012年版）

ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。
ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。
（お届けまで2週間程度かかる場合があります。）

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル6階 （社）投資信託協会SN係

※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

携帯電話はこちら

投資信託協会ホームページで

新連載 「著名人が語る・お金のはなし」が始まりました。

新機能 投信総合検索ライブラリー
・交付目論見書の閲覧
・基準価額の検索やリターン計算
・取扱販売会社や販売会社別手数料の検索 など

［投信総合検索ライブラリー］

投信協会 社団法人 投資信託協会 www.toushin.or.jp 投資信託協会 検索